

白山手取川ジオパーク×有機農業の定義づくりと推進発信の提案

団体名●佐藤ゼミナール2年／代表者名●佐藤 将（経済学部経済学科・講師）

はじめに(背景・目的・目標)

佐藤ゼミナールでは農事組合法人北辰農産株式会社とともに共創インターンシップ活動に取り組んだ。同社が取り組んでいる有機農産物の普及促進にあたり、会社所在地の白山市が推進している「白山手取川ジオパーク」の取り組みが地域農業に対してどのように寄与しているかを議論してきた。

活動内容

今回行った活動は白山市の有機農産物、特に北辰農産がメインで取り扱っているお米の魅力をジオパークとの関係性からどのように発信すべきか、その方法について調査を行った。以下が各時期に行った活動内容である。

9月29日(月)【1回目(会社訪問)】

農事組合法人北辰農産株式会社にゼミ生6人で訪問した。まずは館喜洋社長より会社内にある販売スペースにて米を用いた商品の案内を受けた。続いて行った打ち合わせでは、今回の共創インターンシップ事業で行う課題についての説明を受けた。その上で課題内容に取り組む際の基礎知識の学習を行うこと、具体的にはジオパークとは何かを理解すること、について取り組むこととなった。

これ以降は2回目の打ち合わせまでにジオパークに関する学習をゼミ内で行った。

12月8日(月)【2回目(学内での中間発表)】

これまでに調査してきたジオパークの概要や目的をはじめとして、白山手取川ジオパークの特徴について文献調査を行った内容について報告を行った。報告内容を基に館喜社長より講評が行われた。

12月22日(月)【3回目(白山市役所への訪問)】

3回目では白山市役所に訪問した。2回目で発表した調査結果からでは内容理解に不十分な点を深掘りするために、白山手取川ジオパーク推進協議会の専門員である日比野剛氏に対してヒアリング調査を行った。まずは白山市におけるジオパーク推進事業の取り組みについて説明を受けた。その上で白山市の平野部、特に市街地における認知度が低い要因と

こうした現状に対してジオパークの魅力をどのように発信していくべきかについて調査を行った。

2月19日(木)【4回目(学内での調査報告)】

これまでに調査してきた内容や白山市の現在の活動を踏まえ、現状分析を行い、今後どのように発展していくべきか、調査結果を報告した。

今後の課題、展望

ここまでの調査から、ジオパークの山間部で形成される水資源とジオパーク内で生産されるお米との関係性の重要性を指摘した。一方でジオパークと有機農業との関係性が明確化されていない課題点も見出すことができた。以上のような企業と連携した活動について、今後も佐藤ゼミナールでは実践的な地域活動の取り組みとして実施していきたい。



館喜社長より事業内容について説明を受けている様子



白山市役所内でのジオパークの取り組みについて説明を受けている様子